

## 公開文化講座

# 日本文化の再発見

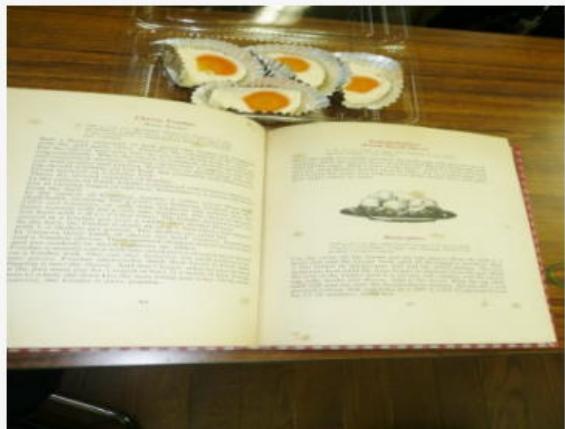
歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

—最終回—

平成26年5月22日（木）、第1回『特別講演』日本民家集落博物館 井藤館長の「卑弥呼の館」の講義を皮切りに、20回に亘る公開文化講座がスタートし、本日 平成27年2月5日に終講式を迎えるました。

前回（第19回）平成27年1月29日は、猪熊先生の“食文化史”「江戸時代の食文化」の講義を受けました。

時代背景から食の特色～「料理本」の登場と「貝原 益軒の養生訓」へと、食の多様化の変遷、および徳川将軍家の豪華な食事から、庶民の粗食に至るまで渝しい講義に終始しました。



猪熊先生手作りの「晩白柚（ばんべいゆ）」を手に講義　　先生手作りの「鶏卵様（卵豆腐）」と「歐州の料理本」…歐州の料理本は何代も受継がれ、歴史の重みを醸しています

貝原益軒の養生訓を心掛けければ、100歳越えも夢ではない…益軒は85歳で没…と感心しきり。

11代将軍徳川家斉の食事：食品は、1か月間に140種にのぼり、5日間に4日は鯛料理が供された由。

また、先生手作りの江戸時代豆腐料理の一種「鶏卵様（卵豆腐）」を味わいながらの講義に、渝しさと感謝の2時間でした。…上部右写真の目玉焼き風、黄身の部分は人参です。

講義終了後、近くの「三田屋 豊中店」で生ハムとステーキ料理の「懇親会食会」を、猪熊先生もご参加いただき、受講生と共に和気藹々の中に交流を深めました。





三田屋で記念写真

懇親会の席上では、講義もさることながら、午後に自主授業で学んだ『国立民族博物館の現地見学会、京都南禅寺界隈の散策、染織史家 吉岡幸男先生 工房見学会、民家集落博物館内「河内の茶室」での裏千家のお茶会』等の話題に花が咲きました。

また、受講生仲間で同窓会を結成する機運が持ち上がり、ONCCファンの輪が拡がることを期待しています。



山城学芸企画課長の講義



理事長の終講挨拶

最終回2月5日は、日本民家集落博物館 山城学芸企画課長による「茅葺き民家入門」の講義です。 「茅葺き民家」の基礎知識から、屋根の構造。民家の現状～農村景観、都市と農村を繋ぐ役割、保存と再生の課題等々で、私達が観光で訪れる各地の茅葺き民家集落維持のために、関わっておられる方々のご苦労を共有することが出来ました。

更に、全国各地の「茅葺き民家集落」を鑑賞する見所をパワーポイントでご紹介いただき、有意義な講義で締めくくられました。

最後に、理事長から終講挨拶をいただき、公開講座を終了しました。

昨年の5月からの長丁場の公開講座でしたが、皆勤者は4名にのぼり、また、受講生のみなさんのご理解とご支援、およびONCC関係者皆様のサポートのお陰様で、無事終える事が出来ました。此処にあらためてお礼申し上げます。

平成27年2月5日 公開講座「日本文化の再発見」教務



### 公開文化講座

## 日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

— 第3号 —

平成26年10月9日(木)

第11回猪熊先生の『食文化史』は、午前中「奈良時代～平安時代の食文化・・・万葉人や

「宮廷人から庶民の食文化」を国立民族学博物館内(力博)のセミナー室で講義を受けました。



猪熊先生のセミナー室での講義と  
館内での解説



午後は、猪熊先生のご案内で博物館を見学、昨年リニュアルされたこともあり、「グリーンランドの自然と文化」、「南・東南アジアの民族文化」、「日本各地の風俗・祭り」等々、真新しい展示に感動しながら、あっという間の2時間でした。



各地の祭りと衣装



グリーンランドの皇室コレクション

#### 平成26年10月23日(木)

第12回『日本建築史』小林先生の講義は、終日「南禅寺界隈の散策」による現地学習です。

京都地下鉄蹴上駅に10:20集合、小林先生の先導でGO！  
駅から南禅寺境内を経て、「植治の庭・・・明治～大正の作庭家」：白河院・無鄰菴等を見学する。



小林先生の解説で南禅寺界隈の別荘地散策



○○さんの解説





紅葉も美しい南禅寺界隈の別荘地



本日最後の目的地「法然院」にて

平成26年11月6日(木)

第13回、酒野先生の『衣服文化史』です。

午前中は、「中世から近世《麻・絹・木綿》・・・小袖からきものへ」の講義の後、午後から『吉岡工房』の見学会です。

先生の先導で、電車を乗り継ぎ、京阪電車 観月橋駅へ移動。伏見区向島の『吉岡工房』へ到着。工房は、古代から平安時代へかけての当時の技法で「草木染めの伝統」を守っている「染め工房」です。

代表の吉岡 幸雄先生は、法隆寺国宝「四騎獅子狩文錦」を復元されました。また、「源氏物語の世界」色彩再現等々、日本の色を追求されておられ、NHK-TVでも度々放映されており、伝統工芸を守る特異な工房です。



吉岡先生より説明を受ける



東大寺の会式に使う「紅花染め椿」



草木染めの原料



先生の手に触れて染色体験をする「基本染色」



先生の手に染卯守化云々の「早々染化」



休むことなく手搅拌で染作業をするお弟子さん

東大寺の会式に使う「椿の原紙」は、「紅花5kgで約30cm 角の和紙1枚」しか染められないとお聞きし、感嘆しきり。他にも会式で使う「石清水八幡宮 放生会の12種の花」、北野天満宮の梅 等々、日本の歴史文化を支える工房を見学できた印象深い見学会でした。

公開講座「日本文化の再発見」教務



### 公開文化講座

# 日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

=平成26年5月～27年2月=

「森と豊かな水、島国という環境が、平安時代以降に「わが国独自の文化」を育む暮らしの「和様、和風の魅力」を学びます・・・第2号

5月29日(第2回) 『日本建築史』若井 敏明先生

「集落の成り立ちから、古代建築への変遷と『平城京』・・・宮殿と町づくり」の講義が始まりました。

若井先生初挑戦?の、パワーポイント「画像データによる講義」を愉しく聴講しました。講義は、縄文・弥生時代の集落の特徴「竪穴式住居」からスタートし、「纏向遺跡と宮殿の起源」、「宮殿と神殿の変遷」、および「飛鳥・白鳳期の寺院建築」へと展開し、「平城京の都市計画」をビジュアルに、且つ、軽妙なトークも交えてアツという間に講義が終了しました。





パワーポイントと共に滑らかトークの若井先生



飛び入り参加の建築史の小林先生

### 6月5日(第3回) 『日本建築史』 若井 敏明先生 午後 現地探訪

『和様建築の幕開け』は、「平安京の町づくり・寝殿造り・浄土寺院建築と浄土庭園」で、畿内に止まらず奥州平泉の仏教文化にまで及び、建築様式と仏教の関わり合いを学びました。

午後は豊中同窓会の協力の下、吉岡、坂口両氏のボランティアガイドにより「原田しろあと館」見学会を実施しました。

当日、応仁の乱直前の細川家内乱で亡くなったとされる、原田城主の五輪塔を「日本民家博物館」にて見学した後、現地に移動。NHK大河ドラマ「黒田 官兵衛」に出てきた「織田方の有岡城攻め」拠点の一つ、原田城跡では堀と土塁の囲まれた城跡を見学。

荒木村重の反乱時の原田北城跡から、約4km西の有岡城を土塁上から確認?結果は・・・建物が建て込んでいて「あの辺り?」でした。

その後、「旧羽室氏住宅」内のミニ資料館で、北城と南城の関連を掲示された資料で学びました。旧羽室氏住宅は、曾根、岡町、豊中の住宅地開発が行われた昭和初期に造られた住友系企業の役員羽室氏の豪邸で現在は市の所有となり、国登録有形文化財となっています。

阪神大震災を潜り抜けた広い邸宅内を案内して頂き、昭和初期の数寄屋風を探り入れた住宅を見学しました。



原田城跡と土塁の立札



ボランティアガイドさんの説明で資料館見学

### 6月12日(第4回) 『食文化史』 猪熊 智雪先生

「地下に真実、地上にロマン」から食文化史が始まりました。

「縄文文化と食」～縄文人の知恵への講義です。調理器具・調理方法・調味料と塩の作り方・貝塚からわかるもの・食物の種類を特定する方法 等々、多岐にわたり熱の入った講義に「エーそうだったの・・・」と、2千~2千5百年以上も遡り、当時の食文化の知識を新たにした楽しい時間でした。



縄文土器片と4千年前の杉の木製品

## 身振り、手振りも交えた講義の猪熊先生

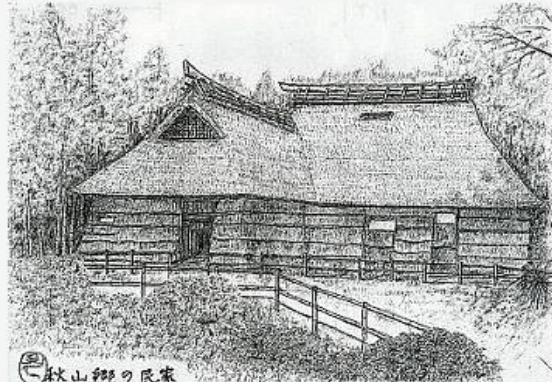
「縄文時代は母系社会」で争いはなし。稻作文化が定着した「弥生時代は父系社会」に入り集落間の争いが起こる。現代の世情と変わらないこと?を再認識。

## 6月26日(第5回)『日本建築史』小林一彦先生

~竪穴住居・高床住居から日本人の住居の原型を探る~講義です。

先生が描かれた日本民家集落博物館内の「秋山郷のデッサン」の表紙ではじまる手づくりのレジュメにより講義を受けました。

「民家史」の時代背景の講義から、建築の構造と民家を先生特技のデッサンにより、生活様式も併せて学ぶことが出来ました。



秋山郷の民家

小林先生自作の「秋山郷」民家



デッサンのレジュメを片手に小林先生の講義

## 7月3日(第6回)『衣服文化史』酒野晶子先生

~縄文時代から古墳時代・・・編布、貴頭衣から高松塚の時代への講義です。

先生の永年の研究結果と共に、復元された「着るもの」・・・服装監修・着付け指導された「由紀さおりの卑弥呼」像をはじめ、研究成果を纏められた著書を主体に、各地で出土した機(はた)や布片から教材としてご自身で復元された織物を通じ、当時の衣服を学ぶことが出来ました。

衣服の素材・・・鹿、猪の皮革・大麻・からむし・藤・絹。

編み物、織物を作る道具・・・原始機・地機・高機等。

先生手書きのレジュメで解説いただき理解を深めました。

また、5世紀頃の地機が現在も活躍・・・伝統工芸の結城紬・・・していることに、先人の知恵に感嘆しきり。印象深い講義でした。



酒野先生が復元された織布



酒野先生が復元された貴頭衣でファッションショー

## 公開文化講座

# 日本文化の再発見

歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

「森と豊かな水、島国という環境が、平安時代以降に「わが国独自の文化」を育む暮らしの「和様、和風の魅力」を学びます。」

平成26年5月22日(木)、「和様、和風文化」を学ぶに相応しい自然に囲まれた環境の下、豊中・服部緑地公園内の「日本民家集落博物館」をセミナー会場に、船本理事長の開講挨拶により、「日本文化の再発見」公開講座がキックオフしました。

開講式後、「弥生文化博物館 卑弥呼の館」を監修された「日本民家集落博物館」井藤徹館長の特別講演で講座の幕を開けました。



理事長の開講式挨拶



日本民家集落博物館 井藤館長講演

講演には、和食文化を担当される猪熊講師も特別参加され、弥生時代を中心とした集落、文化のお話に受講生の皆さんは熱心に聞き入り、あっという間に時間が経ち午前の講義が終了しました。



飛び入り参加の猪熊先生



オリエンテーション風景

講義の後、オリエンテーションに引き続き、自己紹介…ミシン縫製(男性)・バンドマン・有機栽培野菜づくり・ヘルパー有資格者・老人会会長・少年野球監督・手品師等々、多士済々の仲間が集合、これからが楽しみな講座になること間違いなしと、心強い限りです。

午後は、同館の学芸員 小島氏の案内で民家集落…飛騨白川の合掌造り・揖斐能勢の民家・日向椎葉の民家・信濃秋山の民家・大和十津川の民家・小豆島の農村歌舞伎舞台・南部の曲家等の重要文化財、有形文化財を見学、この民家内での「囲炉裏料理体験」実習授業に夢が膨らむ初日の講座でした。



民家集落の見学

日本民家集落博物館 井藤館長から、受講生全員に「大阪府立弥生文化博物館」、「大阪府立近つ飛鳥博物館」、「堺市博物館」の招待券をプレゼント頂きました。井藤館長ありがとうございました。

皆様のご支援、ご協力のおかげで順調にスタートが切れましたことと、厚くお礼申し上げます。受講生の皆様の期待に応え、当講座で学ぶ楽しさを味わって頂ける様、運営に尽力して参ります。引き続きご声援をお願い致します。

ONCC教務担当

公開文化講座

# 日本文化の再発見

## 歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

受講生募集:定員35人



平成26年5月 開講 全20回

「平成26年5月～平成27年2月」



主催:NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ

後援:大阪府教育委員会・豊中市・豊中市教育委員会

公益財団法人大阪府文化財センター 日本民家集落博物館

大阪府高齢者大学同窓会 豊中・茨木・高槻・吹田・箕面・摂津・豊能・枚方 (申請中)

## “日本文化”の再発見 …歴史から見える伝統の暮らし 衣・食・住

### 講座カリキュラム

平成26 年度		“森と豊かな水、島国という環境が、「わが国独自の文化」を育み” 平安時代以降に開花した暮らし「和様、和風の魅力」を学びます				講義曜日 木曜日 講義時間 10:00~12:00	
回	月	日	曜日	【住】 日本建築史	【食】 食文化史	【衣】 衣服文化史	
				…和様建築文化	…和食(日本料理)文化	…「着物」(きるもの)文化	
				☆若井 講師、 小林 講師	猪 熊 講師	酒 野 講師	
1		22	木	開講式…特別講演『弥生文化博物館 卑弥呼の館』 日本民家集落博物館 館長：井藤 健			
	5 時代			(衣)・(食)・(住)		原始・古代…外来の文化	
2		29	木	☆集落の成り立ちから、古代建築への変遷と「平城京」…宮殿と町づくり			
	時代			(住) 平安時代…和様文化の黎明期			
4		5	木	和様建築の幕開け…寝殿造・平安京の町づくり、淨土寺院建築と淨土庭園			
5		12	木	縄文文化と食 …縄文人の知恵			
6		26	木	堅穴住居・高床住居から日本人の住居の原型を探る			
7		3	木	縄文時代から古墳時代…網布、貫頭衣から高松塚の時代			
7		10	木	稻作文化と茶の文化…稻のきた道、米の食べ方			
		8		夏休み			
	時代			(住) 中世…和様文化の深化期	(衣)(食) 平安時代…和風文化の黎明期		
8		18	木	☆武士の館、禅宗様と枯山水庭園、門前町・寺内町発展と農村の形成			
9		25	木	奈良時代から平安時代の衣服…正倉院の衣服・十二单			
10		2	木	和様住宅の原型…書院造と茶室			
	時代			(衣)(食) 中世…和風文化の深化期			
11		9	木	日本料理の文化とその特色…茶懐石、会席料理			
12		23	木	フィールドワーク(終日)…露地・禅の庭・植治の庭			
13		6	木	中世から近世 《麻・絹・木綿》 …小袖からきものへ			
		20	木	離宮建築、城郭と町づくり			
	時代			(衣)・(食)・(住)		近世…和様・和風文化の成熟期	
16		27	木	衣服を作る・文様をつける…織機と染織技術。 …絞り・辻が花・友禅・絢など			
17		4	木	日本の民家と間取りとデザインを語る			
18		11	木	平安時代から江戸時代の食文化…万葉集に見る食材、郷土の雑煮文化			
19		22	木	町家の成立…間取りから暮らしの変遷を辿る			
20		29	木	わが国古来の食から現代の健康的な食を考える…おいしいかるしおレシピ			
		2	木	修了式…特別講演『茅葺民家入門』 日本民家集落博物館 学芸企画課長:山城 純			

注:カリキュラムは講師のご都合により変更になる場合があります。

#### 備 考

日付の色分けは表題の色分けを表しています。

衣……□緑  
食……□珠  
住……□青

午後は、受講される方の自主授業です

#### 【予定】

日本民家集落博物館内

1. 民家集落ガイド
2. 民家集落餅つき体験
3. 囲炉裏料理体験

見学会

1. 国立民族博物館
2. 桜井谷窯跡
3. 豊中市内 南郷目代今西氏邸等

特別有料講座

1. 染司よしおか:
2. 「人形浄瑠璃」国立文楽劇場

「吉岡幸男先生の工房」見学:酒井講師による

注:フィールドワーク、及び午後の活動は実費負担です。

## 「日本文化の再発見」講座講師陣のメッセージ

### 若井敏明 講師のメッセージ『日本建築史』

日本の伝統文化の再評価が、国内外から注目を集めています。その中で、暮らしの『和様・和風の伝統文化』の、黎明期から深化期への変遷から、日本建築を生み出した文化や時代背景を、建築そのものの観賞以外に、その成り立ちの本質に迫ります。

仏教大学、関西大学非常勤講師

著書:『邪馬台国の滅亡』(吉川弘文館)他執筆

### 猪熊智雪 講師のメッセージ『食文化史』

現代、わたし達は和の食のみならず、世界の様々な国々の食を味わうことが出来ますが、自然によりそった生活をし、日本文化の基盤を築いた縄文人の食・和のこころを鑑み、食の歴史を辿ってみましょう。

元大阪府立吹田高等学校 教諭

食文化研究家

福井県若狭の「鳥浜縄文遺跡」研究グループ会所属  
4千年前の杉を利用したペンダントの作製に参画

### 小林一彦 講師のメッセージ『日本建築史』

堅穴住居が、石場建ての民家となり、日本らしい建築が平安時代頃から始まりました。

発展して書院造り・数寄屋造り等、和様の木の文化の住まいが出来上がりました。

民家、町家の形態と、間取りから日本の住まいの文化を「民家・町家の豊富なスケッチ」をご紹介します。

小林一彦建築設計事務所代表

主な作品:第一びわこ学園、立命館大学西園寺記念館  
同志社大学看山ハウス等を設計

### 酒野晶子 講師のメッセージ『衣服文化史』

原始・古代から人びとは、いろいろな着るものを作つて着用しました。きるものの「和風」については、意見が分かれるところもありますが、いろいろな個性的な形と文様から、各時代の美意識に迫ります。

日本の伝統色の再現に取り組まれ、「源氏物語の色五十四帖を再現」された『吉岡幸雄先生の工房』を皆さんと一緒に訪ねたいと思っております。

東大阪市郷土博物館、東大阪市民美術センター  
学芸員、天理大学文学部非常勤講師

著書:『弥生の布を織る』(東京大学出版社)他執筆

## 講座の特徴

近年、ユネスコ(世界遺産、世界無形文化遺産)に登録された「平泉・富士山・和食」等から、日本は世界中から注目され、2013年度の訪日外国人数は1千万人を初めて突破しました。

この様な環境のもと、私達も服部緑地公園内に重要文化財が展示されている『日本民家集落博物館 セミナーハウスと古民家』をメイン教室に、日本の歴史から読み取る『和様・和風の伝統文化』、暮らし(衣食住)を探求し、発信することが出来ればと思っています。

各分野スペシャリスト、4人の講師の指導のもと、座学と現地学習(フィールドワーク)を組合せ、『和様・和風の伝統文化』の原点に迫ります。

午後は仲間と共に、『日本民家集落博物館 古民家屋内の囲炉裏』を囲んだ料理体験や見学会等をご案内します。(自由参加)

大阪府教育委員会・豊中市初め、各方面の団体後援のもと、運営して参ります。

**【会 場】** 日本民家集落博物館(服部緑地公園内)

セミナーハウス及び古民家 他

**【期 間】** 平成 26 年 5 月～平成 27 年 2 月(全 20 回 )

**【受講料】** 26,000 円(全 20 回分)

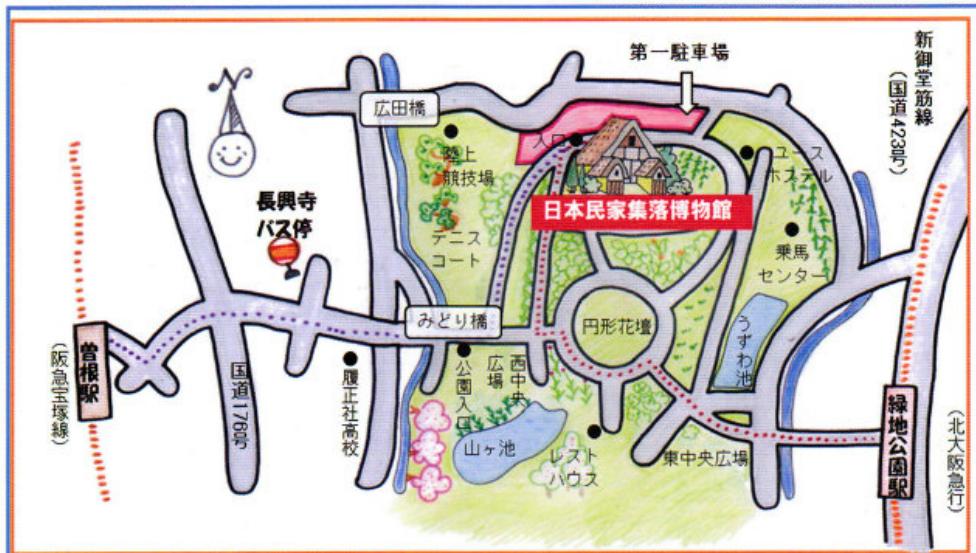
別途費用:日本民家博物館年間ミュージアムカード代 2,000 円

**【定 員】** 35 人(定員になり次第締め切ります)

服部緑地公園内の主な講座室となります「日本民家集落博物館」

セミナーハウスの周辺地図

上記以外に豊中市立ルシオーレホールを使用する場合もありますが、  
その都度ご案内いたします。



= お問い合わせ先 =

NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ

〒567-0817 茨木市別院町 4-10

TEL:072-646-9422 FAX:072-646-9423

E-mail: info@oncc.jp URL: http://oncc.jp

